

すぎやまみちお

杉山道夫

写真

推進

無所属で立候補

私は立憲民主党員です。でも今回は、党や仲間は一切相談しないで、出馬を決めました。

県議選への圧力か？

県議選の情勢は、現職二人以外の出馬の動きがなく二回連続で無投票になりそうでした。これは野党、特に第一党の立憲民主党に責任があります。民主主義の根幹である選挙は、大変大事なものです。それで、誰も出ないのであればと決意し、ポスターを作るため、三月十七日に市内の印刷会社を訪ね、契約書を渡し発注しました。ところが三日後の二〇日「ポスターを作れない。」と連絡がきました。「えっ、なぜ？正式に約束したはずだよ。」「作ると会社の将来に重大な影響がでるから…。」「どういうこと？」「やっていけなくなるかも…。」「私は「断りの電話が来たことは確かに聞いた。」と言って電話をきりました。圧力がかかったかな？ 初めてのことだ。こういう圧力を壊したいと思います。

知事は勝手に宮下氏を支持

知事選は勝手に宮下さんを支持すると表明しました。なぜか。対抗馬の小野寺氏は総務省出身ですから地方自治に精通して、そつなく仕事は出来ると思いますが、保守本流を歩んでいるため、国や自民党の意見を尊重しすぎるところではないかと私は思っています。国に強気で対抗し、独自の政策を出してくれるか。その違いです。

政策の基本は少数者の味方

その点、宮下氏はお父さんのご逝去で市長になったので、周りのおせん立てで政界に入ったわけではなく、発言や発想が自由で、国にも強く発言できそうに思えるからです。発信力もあります。青森県の現状から見ると国のいいなりよりも、独自の発想で取り組んでくれる方がいよいよな気がします。